

規程によりて入學許可相成りたる由

### ●女子教育講話會

婦女新聞社の催にかゝる同

會は去月十四日午後一時より神田一橋通町帝國教育會に於て開かれたり。先づ藤田文藏君は「女子に對する希望の一端」と題して、女子は單に己の爲めのみ事をする事なく世の爲社會の爲といふ事も考へべく、しかも男女各職分立場を異にすれば婦人は婦人らしく、温順謙遜柔和なるべく、而して確信を以て世に處し妄に他に動かされず、自己の心と力に由て事をなすべしと述べられ、次にオルガンの獨奏あり。次に宮田修君は動物虐待防止會の趣意を述べ今回新に婦人部を設けたる事を告げられ、再びオルガン獨奏あり。夫より安井哲子君「婦人の矛盾的生活」と題して婦人が主婦として、妻として、母として一家に、夫に、子に

獻身的に愛情を捧ぐるはさもあるべきことなるが若し之れ次外の他人に興味を有たず、他の幸福といふ事を考へざる時は、是れ一方に獻身的なると共に一方には利己的にして矛盾せることにあらずや。殊に學生生活をしたる人。又は現にしつゝ、あは自分がよく勉強すればよき時代なれば、其極他人に對して興味親切なきに至り、遂には世事人情にうとくなるに至る。要するに世の幸福、平和の源は人々各己をすて、他を思ふにあり。と述べられ、次で巖本善治君は「何をか新しき女學といふ」と題して、舊幕時代の女子教育は自ら身だしなみよき全然犠牲獻身的の女子を作りし事を論じ新女學としては此上に社會政治國家等百般の事に智識興味を有し、見界の廣かるべき事、盲兒、生

理、心理をわきまへ、母として教育思想を欠くべからぬ事、女子自ら、及女子を教育する人が女子の美德を尊敬して人は何處までも善良に發達し得る希望と信仰あるべく、女子を輕ざるはあるまじき事なりと述べられ、最後に子に及ばす母の感化の例證を挙げられ深き感動を聴衆に與へられたり。

●東京府教育會の夏期女子講習會 同會は今般

教員たるに必須の學力を補充し、兼ねて一般女子のために新知識を得しめんがために、來月一日より同廿一日まで東京市神田橋外元東京府第一高等女學校内に開設するものにして、學科及講師は左の如しといふ。

教育（教授法）女子高等師範 下田次郎  
學校教授

國語 東京女學院 國分操子

音樂 附教授法 元東京音樂學校教授 小山作之助

應用化學……………講師未定

裁縫教授法 東京女子師範 小谷野千代

因に、講習料は、一科一圓 二科一圓五十錢、三

科二圓 四科以上二圓五十錢 但し音樂のみを修

むるものは 一圓五十錢なりと。

●動物虐待防止會婦人部 動物虐待防止會に於

ては今 回 新に婦人部を設立し去月二十日九段牛ヶ淵體育會に會員中の婦人集合し席土廣井辰太郎宮田修、高島平三郎、本田増次郎諸氏の同會の趣意目的、婦人部設立に付て其他有益なる談話あり

因に言ふ同婦人部は爾後毎月一回集會する筈